

りしに、ふたも有、身もあり、三角の木を紙よりにてあみて作りたる物也、其蓋は世に用るやない箱といふ物也云々略○中

一延喜式に柳箱トチ糸生糸とあり、後世は元結也、生糸とはねらぬ糸の事也、

一やないばこをやないばといふ人あり、かたこと也、笑ふべし、然れども明月記に柳葉とあり、略語なり、雅亮裝束抄、源氏物語等にはやないばことあり、

〔雍州府志七土産〕柳筥 載諸品物之臺也、或謂柳筥、凡柳樹削、庵皮、則其木色潔白、故始用柳、今間雖用

檜木、總稱柳筥、造之法、割柳爲小片木、以紙捻編連之、爲座、座之下左右著編木脚、凡編木之數、吉事用陽數、故五七九十一爲式、凶事用陰數、故六八十二爲式、凡雖有大小長短、不過陰陽之定數、檜物屋造之、或造木笏淺沓家亦製之、一說上古未、知割板時、伐樹枝編連之、大小隨其用、而爲載物之臺、故編木無定數云、此義可取者乎、

〔延喜式十七內匠〕年料柳筥一百六十八合、一尺六寸已上、一尺以上、料柳一百三連、山城國織宮料生絲一十二斤、巾料

調布一丈、浸柳料商布一段、長功三百卅六人、中功三百九十二人、短功四百卅八人、

〔延喜式二十四主計〕凡左右京五畿內國調、一丁輸錢隨時增減其畿內輸雜物者略○中 三丁柳筥一合、長二尺二寸、廣二尺、深四寸、略

凡諸國輸調略○中 絲一丁成絢略○中 柳筥一合、長二尺二寸、廣二尺、深四寸、略

〔內宮御神寶記〕伊勢太神宮 內宮略○中

出座御裝束略○中 錦御枕貳枚略○中 納白柳筥壹合方一尺五分、深二寸、赤地唐錦折立、

帛袷御袂八條略○中 納白柳筥壹合方一尺五寸、深二寸、打

〔續日本紀九元正〕養老六年十一月丙戌、詔曰、略○中 奉爲太上天皇元明、造○中 銅鏡器一百六十八柳

箱八十二、